



タックシステム株式会社  
www.tacsystem.com

## CONTENTS

- 1p-TAC セミナー案内、Millennia社 TD-1 ユーザーズボイス
- 2p-NAB2004 レポート
- 3p-Royer レポート
- 4p-AVIOM デモンストレーションレポート
- 5p-今宵のおススメぶらぐいん" URS 社"
- 6p-Pro Tools に困んだちょっと良い話!
- 7p Steinberg 「TIME Base」の実力!、ドライブコピーで音が変わる?
- 8p-導入事例
- 9p-新製品案内
- 10p-各種インフォメーション



タックシステム創立10周年記念

## TACセミナー第3弾「ICONの登場」

Digidesign からついに発売された話題の統合コンソール「ICON」のデモンストレーションを、ゲストの講師をお招きし実践セミナー形式で行います。  
また、さらに進化を遂げた最新の Pro Tools 6.4 software や、Pro Tools TDM/LE システムに最適化された新しいコントロール・サーフィス Command8 等の新製品も展示いたします。

■日時：5月26日(水)、27日(木) (1)13:00-14:30 (2)15:00-16:30 (3)17:00-18:30  
■場所：弊社新設デモルーム(最寄り駅 目黒) ☆詳細は弊社ホームページでご確認ください。

[登録定員制]  
入場は無料ですが事前登録が必要です。お申し込みは下記の必要事項をご記入の上 E-Mail(info@tacsystem.com) または FAX(03-3442-1526)にて承ります。  
1.名前 2.職業(会社名) 3.住所 4.電話番号 5.メールアドレス  
人数に限りがありますので定員になり次第締め切りとさせていただきます。

※同時開催としてお買い得満載の業務用機器がレーザーセールを行います。新品同様の8級品やジャンク品が多数!早い者勝ちです。

### Millennia 「user's voice」

Millennia  
Music & Media Systems

アーティスト 鳥山 雄司さん  
『長年悩んでいたことが解消されました!』

by Kubota

デモ機を使ってみて、すぐに気に入りました。ローの感じや倍音の出方がこれまでのものとはまったく違う。密度の濃さというか、一気に情報量が増えましたね。すぐに注文して「ライブ イマージュ」のツアーマテリアルとして使用しました。

低音のスピードが早くダイナミックレンジが広い。大きなホールで音を出す時にはかなり威力を発揮します。質実剛健という面がたまにもとても気に入りました。アコギを無伴奏で弾く時にピエゾマイクとベストマッチですし、深みが出て、中域に密度がある。フィンガーピッキングの表現が抜群に出ます。マイクプリアンプとEQも素晴らしい。

情報量が多いので、細部まで再現できる SACD の制作にも活躍してくれるでしょう。  
特に今まで悩んでいたアコギのライン録りが、この「TD-1」で一気に解消されたという事です。



#### ★鳥山 雄司さん プロフィール

1981年に慶應大学在学中にソロ・デビューアルバムを発表。その後ギタリストとしてのみならず、アレンジャー・プロデューサーとして活躍。近年はTBS「世界遺産」のテーマ曲「ソング・オブ・ライフ」が大ヒットアルバム「Image」に収録されるなど、ドラマチックさと疾走感を合わせ持つ独特のサウンドを創造しつづけている。

#### ★インフォメーション

4/28に通算13枚目のオリジナルアルバム「コンプリート・世界遺産テーマ曲集」(ソニー SRCC10001)を発表。  
5月下旬まで「ライブ・イマージュ 4」の全国ツアーに出演中。

### Millennia TD-1にHV-3マイクプリアンプが標準装備!! しかも価格据え置き!!

すでに、多くのミュージシャンに使用され好評を得ている、ダイレクトボックス「Millennia TD-1」が新たに仕様を変えてリリースです。世界中で定評のある Millennia HV-3シリーズのマイクプリアンプが標準装備されました。以前は、オプション設定(60,000円相当)でしたがユーザーから導入の意見が多く寄せられ標準仕様となりました。価格はなんと据え置きです!! これにより、DIインプットでライン録音のみならず、マイクを立てて収録も可能。ボーカル録りもバッチリ。録音の幅は非常に広がるでしょう。もうだだのDIとは呼べないかもしれませんが・・・レコーディングシステムとってください。とは言っても、DIとしての機能は素晴らしい、ギターやベースなどの楽器の音が必ず変わります。音に輪郭を付けたい、太い音にしたいなど、ミュージシャンの希望を叶えてくれるダイレクトボックスです。何はともあれ音を聞いてみてください。デモ機あります!!



世界最大の放送コンベンション「NAB2004」が4月19日から22日（機器展）にラスベガス・コンベンションセンターで開催された。音響業界の興味と云えばDigidesignの大型コンソール「ICON」がNAB開催前から話題を呼んでいたが、会場でも終始沢山の人がブースを埋め尽くされていた。また、隣のAppleブースも同様に広いステージで積極的にデモンストレーションを行っていた。全体的にはDTVの普及が進む米国のショーだけあってHDに関する機器やコンテンツが多数を占めていた。その中でもひととき目立ったのがApple、Avid、HARRIS、Pinnacleといったソフトウェアを全面に押し出したソリューションを展開する大型ブースの成長ぶり。逆にラジオ/オーディオ関係は急激に勢力が弱まってきているように思えた。これは日本においてInterBEEでも同様な動向を感じられるが、その比ではない。スピーカーやアンプ、マイクを展示しているブースが極端に少なかった。HDの導入は日本でも着実に進んでいるが、いかにインフラを整えるのに時間がかかりすぎるがゆえ、この様に大々的なパフォーマンスはささか過剰すぎるのではないかと感じてならない。いずれにせよ、いろんな意味で時代が変わろうとしているのは確かで、日本の老舗大手企業がどこまで生き残れるのかも興味深いところである。

## ■ Avid/Digidesign

今回の集客率が最も高かったブースのひとつです。AvidはStudioLiveとProToolsLEを組み合わせたXpress STUDIO やビデオサーバーのAirSpeedを出展。低価格層からハイエンドまでを網羅したソリューションを展開。各コーナーでは専任のデモンストレーターが詳しく説明していた。Digidesignは注目のICONを展示。老舗の大型コンソールマーケットにどこまで参入できるのか楽しみである。



## ■ SRS Labs(サークルサラウンド)

サラウンドマーケットが面白くなりそうである。サークルサラウンドは2chにアナログエンコードされた信号から5.1chデコードが可能。ハード/ソフトウェアの両方を展示(ProTools用は近日発売)。ステレオとサラウンドのコンパチビリティの限界に挑戦。差し詰め対抗馬はDolby ProLogic IIか? TokyoFMでは既にこのサークルサラウンドを使用した放送を開始している。SRSについては、近々弊社で取扱いを予定していますので御期待下さい。また同ブースには試作品ではあるがHOLOPHONE社のハンディーカム用サラウンドマイクが展示されていた。形がなんとユニーク。



## ■ Mackie

dXb400を展示。タッチパネル式の液晶モニターとコンパクトにまとめられたデザインが印象的だが、心なしカブスの雰囲気は元気が無い。販売はこれからだというタイミングを逃さなければ良いのだが。



## ■ MOGAMI

日本から出展しているモガミケーブルは、米国においては高品位ケーブルの代名詞のような位置づけである。弊社で扱っているミレニア社のHAも内部配線はこのモガミケーブルを使用している。また、TACオリジナルケーブル(D-Sub25対キヤノン等)もモガミケーブルを使用し、お客様からは高い評価を頂いている。ケーブルにこだわる方はモガミケーブルに注目!!



## ■ JL Cooper

今回のショーではJL Cooperのコントローラーが、NAB各社のブース約25社で採用されており、映像系の制御でも必需品になっていた。その中でユニークな新製品が、何点が出展されていたが、KeyShotは、10個のセレクトキーが自由にアサインでき、RS-422、USB、Ethernetに対応し、DAW/VTR等の制御を可能にしたもので、NUENDOのリモートとして展示していた。又ES-SloMoは、RS-422マシンリモートコントローラーで、4台のVTRの制御が可能で、Doremiのディスクレコーダーをマルチコントロールされていた。



## ■ ストレージ関連

ストレージ関連も各社新製品ラッシュとなっていたが、SCSIドライブに比べATAドライブの価格が圧倒的に安くなったことと転送速度がSCSIとあまり変わらなくなったことで、小型のものはFireWire(IEEE 1394)接続が主流、大容量でもサイズが小さくATAraidで非圧縮HDTVの再生が可能でApple/Mac G5のルックスを意識したデザインの新製品が目立っていた。



## ■ Videoquip

着実に商品アイテムを増やしているVideoquip。AM-4のモニターパネルは音質も充分考慮したモデルである。また、チャンネルの位相まで瞬時にチェックできる機能も持っておりデジタル/アナログ/SDIに対応している。多彩なラインナップを持つPhase3シリーズにASIのルーターと分配器が仲間入り。コンパクト、低価格が売りである。

## ■ AVIOM

Sound Mixing Pavilionというコーナーではミキシングセミナーが開催されていた。そこで音の送り出しに使用されていたのがAVIOMのAN-16/iとAN-16/o。CUEシステムとしてスタートしたAVIOMであるがこのような伝送システムとしての可能性にもチャレンジ中。目が離せません。



## ■ SOUND DEVICES

ハードディスク・デジタル・ポータブル・フィールド・レコーダーが登場した。インターナルHDの他にCFスロットを持ち、4ch(マイク/ラインは2ch)/24bit/192kHz対応(Model744T)。バッテリーはSonyの民生ビデオカメラ用を使用できる。タイムコードやワードクロックI/Oも装備する。さらに、1394(FireWire400)で高速データ転送が可能だ。こんなレコーダーが欲しかった現場も多いだろう。(重量1Kg強です)



ロイヤーのリボンマイクは弊社で半年ほど前から取り扱いをしている商品ですが、会社設立は1997年でオーナーのデビッド・ロイヤーと社長のリック・ベロッタにより完璧な生産管理の下、現在では月間100本を超える出荷と新製品の開発を精力的に行っている。

今回は、表参道のFABで行われたロックのライブをレポートします。KENNEK KNOCK社の岡田 明生氏(以下O)のご協力でロイヤーのリボンマイクをエレキギターで試していただきました。



オペレート中の岡田氏

O: PAにリボンマイクですか...?! 本当に大丈夫ですか? 壊しても責任持ちませんよ...  
 H: ご心配には及びません。ただ音質については好みがありますからねえ...  
 O: 何の楽器にお勧めですか?  
 H: 今回はエレキギターはいかがでしょうか?  
 O: ますます心配になってきました。  
 H: もしその心配の理由が音圧であるならば問題はありません。既にUSAでのレコーディングやライブではエレキギターやドラムに幅広く愛用されており、スペックでは135dBを保証しています。  
 O: エレキギターを勧める理由は何ですか?  
 H: MATCHLESS(マッチレス)というギターアンプをご存知ですか?  
 O: ええ、もちろん。私もエレキギターをやりますからねえ。エレキギターをやる人なら大体知っているあのアンプです。今はもうプレミアムものではな。

という訳で半信半疑の打ち合わせの後、本番に向かいました。手際よくセッティングが進み音がだじがまりました。マーシャルのキャビネットにシユア SM-57とロイヤー R-121を仕込み、SM-57のフェーダーを上げいつも通りのコンディションであることを確認しました。そしていよいよR-121のフェーダーを上げた瞬間です。

O: ウオ~~!!! (口元がOの字になっている) 何だこれは...!? 今までに聞いた事のない音が、厚くてもろやか、そして自然なサウンドはとてもEQをいじって出せる音ではない。新発見。感動。国内でこの体験をしたPAエンジニアはまだごく少数に違いない。友達にエンジニアにぜひ勧めよう。というより僕が欲しい。  
 H: 気に入っていただいてありがとうございます。今回はSM-57とMIXして使用しました?  
 O: それも考えましたが、このサウンドならR-121を1本で充分です。  
 H: ステージが小さいですが、双指向性のデメリットは感じましたか?  
 O: 全く感じませんでした。もともとギターアンプは高音圧ですから回り込みの心配は思ったよりありません。とにかくこの音色は他に無いものです。ダイナミックマイクやコンデンサーマイクではどのように使ってもこのリボンマイクの味は出せないでしょう。使えないマイクなので少々戸惑いは確かにありましたが、音を出した瞬間に、使いこなす事で更によいサウンドを引き出せるような興味に変わりました。  
 H: この特長的な音色は極めて薄いヒダ状のアルミリボン(2.5ミクロン)をほどよいテンションで引っ張るだけの単純な構造から創られます。つまり、他の種類のマイクにありがちなダイヤフラムが持つピークやディップが少ない分だけ自然なサウンドになるのです。逆に言うとコンデンサーマイク等はダイヤフラムだけではなくマイクキャビネットの中で起きている定在波を含め、非常に複雑化したピークを聞いて華やかであるとが明るいサウンドと感じ取る事が多く、根本的にナチュラルなサウンドを得るのが困難なのです。  
 O: なるほど、リック・ベロッタ社長がギターサウンドの追求はマッチレスの次に選んだ会社がロイヤーであるのがうなずけます。タフな扱いにも耐えられるという事ですし、リペアに関しての問題もなさそうです。このロイヤーの存在を知ればPAやレコーディングの音の選択枠がぐんと広がるに違いありません。今回はよい勉強になりました。  
 H: 本当にありがとうございました。.....



セッティングされたR-121

## 【番外編】 今回のライブでは他にもこんな製品が使われました。



ドラムのOHにはステレオリボンマイクのSF-12を。これも初めての体験。シンプルにステレオイメージを出せる。



Vo用のHA/コンプ/EQにMillenniaのSTT-1と、E.Bass用のコンプにTCL-2が使用された。とにかくHAが歪まない。コンプもナチュラル感を失わずガンガン効いてくれる。



E.VCI用のDIにMillenniaのTD-1が使用された。芯のある中低域の輪郭を確実にキャッチ! DIもきちんと作るとうなるのがあ。DIの認識が変わりました。次はE.Bassに使いたい。

## プレゼント



ロイヤーのデモCDを無料配布しております。ご希望の方は氏名、住所、電話番号、職業(スタジオ名)をご記入の上、e-mail(info@tacsystem.com)かFax(03-3442-1526)でお申し込み下さい。

ロイヤーの販売を始めてから半年が経過しましたが反応は上々です。リボンマイクという古い構造のマイクを新しいデジタルシステムの中でぜひ体験していただきたいものです。日本でもリボンマイクブームが到来する日は近いでしょう。

## Demonstration Report

by Kubota

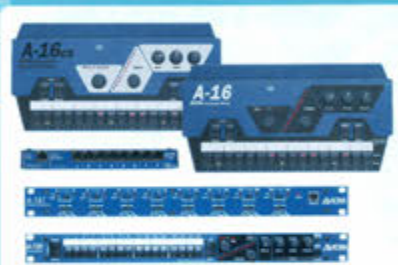
AVIOMとはCat-5ケーブル1本で16ch~64chもの音声を伝送できる画期的なシステム。タックシステムが、昨年夏から新たに取扱いを開始したモニターシステムです。16chのキューシステムから始まり、昨年秋には、64chの音声伝送システムも加わり、幅広いモニターシステムを組めるようになりました。ここでは、新製品の紹介も兼ねてAVIOMのライブ現場での活躍ぶりをレポートしたいと思います。

協力：株式会社オフィス・インテンツィオ コーディネーター ATM 堀内 淳子



4月9日 六本木。ライブでAVIOMを使用してくださったアーティストはあの高橋幸宏さん、絶野潤臣さんのバンド「SKETCH SHOW」。

今回のライブは、モニター部分を非常にシンプルにセットアップできるAVIOMでシステムを組みました。ステージのメインモニターにヘッドフォンを利用するスタイルには、16chという多チャンネルを組めるAVIOMシステムはまさにうってつけ。



### What's AVIOM?

ここで、AVIOMシステムの紹介を少しします。AVIOM社独自のA-Netプロトコルで、内部処理は24bit/48kHz、Latencyはわずか0.88msec。とても高品質な音声を伝送できます。シンプルなシステムとして、トランスミッター「AN-16/I」か「A-16T」とパーソナルミキサー「A-16」があれば16chのキューシステムが完成です。

その他、用途にあわせて、A-Netハブや16chアウトプットモジュールがあります。伝送システムとキューシステムを組み合わせることにより、いろいろなモニターシステム設計ができる新しい製品です。例えば、ライブでモニターミキサーなどに音を送る場合、通常、太い！重い！そして値段も高い！マルチケーブルを引き回す必要があります。ところがAVIOMは1本のCat-5ケーブルで、A-Netインプットモジュール「AN-16/I」とアウトプットモジュール「AN-16/O」を数台組み合わせれば最大64chの音声を伝送できます。



さて、ライブは見た目も大事。AVIOMのデザインは好評でした。今回のライブではご覧のとおりステージ上に楽器がすべてきれいに納まっています。キーボードやミキサー、PC、に混ぜて違和感なくとけ込んでいます。また、軽く丈夫で持ち運びが楽な点もライブ機材の必要条件をクリア。さらに、セッティング時間の短縮が可能です。回線分のケーブルはもう必要ありません。何度も言うようですが、Cat-5ケーブル1本です。ステージ上のケーブル配線の煩雑さがなくなり、見た目も美しい・・・などなどライブ環境にベストマッチ！！とは言い過ぎでしょうか？(笑)



ライブ当日は、2モデルのパーソナルミキサーをセッティングしました。「A-16」と今春新発売の「A-16II」です。さて、どう違うかですが(見た目は殆ど一緒)、

「A-16II」は、「A-16」に比べハイゲインアウトプットモデルです。ライン・ヘッドホンアウトが高出力です。ライブ現場ではこちらが好評でした！レコーディングスタジオやライブなど、パーソナルミキサーも用途に応じて選べます。また、ラインレベル対応しか無かったトランスミッターもマイクレベル対応の「AN-16/I-M」が登場し(6月発売予定)、システムに応じてモデルの選択が可能になりました。そしてディストリビューターにも新製品です。「A-16D Pro」A-Netハブ・電源供給ディストリビューターです。従来のA-16Dはミキサーの数だけ電源アダプターが必要ですが、「A-16D Pro」は、ACコンセント1つあれば十分。電源周りのセッティングが楽になります。(→詳しくは新製品情報で！)



このようにいろいろなモデルを組み合わせ、あらゆるモニター環境に対応できるAVIOMを今回、オフィス・インテンツィオ様とコーディネーターの堀内 淳子様のご協力とライブでデモをして頂いたわけですが、SKETCH SHOWのお二人にも好評で、AVIOMの導入を決めて頂きました。(ありがとうございます！！)

導入のポイントはデザインの良さ、機能性。コストパフォーマンスの良さ。新しい機能と拡張性に期待できる点で、今回導入して頂く「A-16II」「A-16 D Pro」「AN-16/I」が今後の彼らのライブや海外公演などで活躍するということです。

※「SKETCH SHOW」インフォメーション <http://www.daisyworld.co.jp/artists/index.html>

AVIOMシステムに関心を持たれた方は、今すぐお電話を！！お待ちしております。

## “今宵のおススメぷらぐいん”

by Yoshida



待望のSシリーズが4月末にリリースされ、一挙にラインナップが5種類に増えたURS社のプラグインですが、今回はその魅力のサウンドをより的確にお伝えすべく、現場の生声という事で、エンジニアの飯尾 芳史さんにご登場頂きました。

吉田(以下Y):かれこれ20年以上レコーディングを経験されていますが、これまでも振り返られて技術的にあお考えになる事は、どんなことでしょうか？

飯尾(以下Y):そうですね、アナログ時代は、いかにしてレコード盤レベルに入れられるかが大きなポイントで、位相と低音の処理、そしてシビランスにもものすごく気を使ってmixしていましたが、CDになってからは随分楽になったと思います。ただアナログ技術自体はもう9割方完成しているのに対し、デジタルはまだまだ2~3割がいいところで、今後のデジタルの進化には非常に興味がありますね。

Y:成る程。デジタルと言えばProToolsは、その申し子の代表かと思いますが、ご使用になっていていかがですか？

I:ProToolsを使い始めて6年目になりますね。初めは何度もアナログ卓に戻りたいと思ったんですが(笑)、一度戻ると先へ進めないと、移行後一度もアナログ卓を使ってません。元々編集好きだったせいかなでは、神様がくれた贈り物の様に思っています。ProToolsの音色云々より音楽を創るToolとして最適だと思っています。そもそも音楽は音を創るのではないので。HDになり、192Kで録音出来たりと進化を続けているけど、野球で言うところの4番バッターが、9人いるような感じで、調和感が無いのは否めないのですが、録り方を考えれば解決も出来ると思います。エンジニアとして、ミュージシャンとセッションしたい気持ちがあるので、再生中にプラグインをノイズもなく簡単に入れられるようになると、すごく嬉しい。

Y:確かにVer6になって再生を止める必要はなくなりましたが、依然CPU的に処理時間=無音が生じてしまうのは今後、改善を期待したい所ですね。さて「編集長」の異名をお持ちの事ですが、ことmixに関してお気に入りのプラグインはありますか？

I:気に入っているプラグインは、McDSPのコンプレッサーバンクとフィルターバンクあたりですね。これらは比較的無理の利くプラグインで、アナログのそれに近い気がします。

デジタルになってからはレスEQが多くなっていてこれはブースト出来る優れたものだと思います。/



以上、どんな時も真摯に対応して頂ける飯尾さんでしたが、そのお人柄がサウンドにもしっかり感じられます。忌憚りの無いご意見を伺える方ですが、今回URSにはお墨付きマークを頂けたと思います。ホント良いです。是非皆様にもお試し頂きたいと思っております。

プロフィール：1960年12月5日生まれ射手座のA型。1979年YMOのレコーディングからスタートし、83年にフリーになる。以後フェアチャイルドとQuantec ORSの虜になり、20年近く使用中。

### URS社 PRODUCTS!

#### Classic Console EQ Bundle 価格 ¥115,500 (¥110,000 税別)

URS Aシリーズ、Nシリーズの2種類をバンドル。  
 (ProTools HD Accel, HD, MX, RTAS, AS 対応 Plug-In)

- URS Aシリーズ：API 550B 4バンドEQをデジタルイミュレート



- ・独自のクラスAデジタルアルゴリズムを採用
- ・4バンド対応で、各々7種類の周波数を選択可能
- ・12dB/バンド幅のブースト/カット
- ・バンド1及び4はピーク/シェルフリングカーブ切替可能
- ・入力レベルトリム付き

- URS Nシリーズ：NEVE 1084 5バンドEQをデジタルイミュレート



- ・独自のクラスAデジタルアルゴリズムを採用・5バンド対応
- ・Lo/バンド4種、Mid/バンド6種、Hi/バンド3種の周波数を選択可能
- ・12dB/バンド幅のブースト/カット
- ・Mid/バンドは「Hi Q」スイッチによりQカーブの選択可能
- ・ローパス・5種、ハイパス4種の周波数を選択可能・入力レベルトリム付き

#### Classic Console Graphic EQ Bundle 価格 ¥115,500 (¥110,000 税別)

- N12シリーズ：Neve 1073 フィンテージEQベースとした全く新しい12バンドグラフィックEQ



- ・12バンドのグラフィックタイプEQ
- ・各12dB/バンド幅のブースト/カット
- ・設定ゲインは数字表記により確認可能
- ・入力レベルメーターおよびグライドリム

- A10シリーズ：API 550B フィンテージ10バンドEQをデジタルイミュレート



- ・10バンドのグラフィックタイプEQ
- ・各12dB/バンド幅のブースト/カット
- ・設定ゲインは数字表記により確認可能
- ・入力レベルメーターおよびグライドリム

#### Sシリーズ 価格 ¥84,000 (¥80,000 税別)

- Sシリーズ：世界的に有名なコンソールEQをデジタルイミュレート



- ・4バンド、フルパラメトリックEQ
- ・15dB/バンド幅のブースト/カット
- ・独立したハイパス/ローパスフィルター搭載
- ・HFおよびLFはシェルフリングまたはベルカーブの切替可能







# 「へえボタンに出力端子を付けるってよ、へえ～」の巻

長時間にわたる編集作業に嫌気がさした時、レコーディング中、スタジオ内が気まずい雰囲気になったとき…そんな時にはポケットにこっそり忍ばせておいた本機が大活躍。そこらへんにあるジャックに差し込んでボタンを押してみましょう。きっと場が和らぐこと間違いなし！



ゲーセンで2000円もつぎ込んで入手したへえボタン。思い切って穴をあけます。



フォーンプラグを取り付けて接着剤で固定。スピーカーの配線を外し、プラグへとハンダ付け。「へえ」の声は専用ICで発生しているというから驚き。

### ★完成



ケースを元に戻して出来上がり。パッチに差し込んでボタンを押すと…

### ★番外編



もちろんギター用としても使用できます。それにしてもオーバードライブへえって何なんだ！？

※製作、実験にあたっては各自の責任でおこなってください。

## ■ FireWireタイプの外付けハードディスクドライブについて by Niita

FireWire 接続タイプの外付けハードディスクをお使いのお客様より、突然マウントしなくなったなどのデータ消失についてお問い合わせいただくことがあります。FireWireタイプのドライブではケースの小型化や用いられる材質によって発熱しやすいものがあり、通常の一般家庭での使用なら問題なくとも、複数トラックの長時間録音といったようにドライブに多大な負担がかかった場合に発熱によってドライブが停止、反応しなくなってしまうことがあります。弊社から発売している TW シリーズのドライブは、熱によるデータ損傷を防ぐために冷却ファンを搭載。また、ACアダプタで起こりがちな接触不良、断線によるトラブルを避けるために、ACアダプタを使用せず、AC100Vを直接接続できるタイプを採用するといったように、データの安全面にも配慮しています。

なお、故障により大切なデータが消失してしまった場合でも、データ修復や部品交換によって復旧できる場合もございます。出来るだけの対応させていただきますので、万一の場合は弊社までお問い合わせください。(データ復旧は基本的に有償扱いとなります。)



TACオリジナル TW-120F

## INFORMATION

### ■ 2004年国際放送機器展

Inter BEE 2004 国際放送機器展が例年通り鳥張メッセにて開催されます。今年もプロオーディオ部門で新製品を多数加えた展示を行います。是非ご来場ください。

日時：11月17日(水)・18日(木) 10:00～17:30  
19日(金) 10:00～17:00  
会場：日本コンベンションセンター(鳥張メッセ)  
弊社展示ブース：プロオーディオ部門  
入場料：無料(登録制)



### みどころ：

- AVIOM社 モニターシステム 初出展
- LANケーブルによる16chパーソナルモニターミキシングシステムの新製品と64chデジタルネットワークシステム
- Millennia社 TD-1
- 真空管回路とFETソリッドステート回路の両方を一つの筐体に納めたダイレクトボックス
- Mojave Audio社 初出展!
- リーズナブルで高性能なチューブマイクと、全く新しいコンセプトのチューブマイク組み立てキット
- Royer Labs社 SF-24 初出展!
- スタンダードなダイナミックリボンマイクに加え、48Vファンタムパワーステレオリボンマイク
- URS社 S Series EQ 初出展!
- メジャーコンソールのEQをシミュレートしたProToolsプラグイン
- その他:RorkeData社、StorCase社、TAC Systemオリジナルのネットワークやデータストレージ系の機器等を展示

### ■ 新人紹介！

このたび新たに入社いたしました山本 聡です。これまでDAW等の製造元で業務用機器のサポートや販売を行ってまいりました。不慣れな点などあるかと思いますが、みなさん宜しくお願いします。

追伸：社長と名字が重なりますが赤の他人です。

### ■ サウンドフェスタ 2004

今年で10回目！話題の新製品を見て・聞いて・触れる関西随一のプロオーディオ・ビジュアル・イベント！ご来場の上アンケートにお答え頂くと抽選でiPodが5名様当たるうれしい企画あり

- 日時：6月2日(水)・3日(木) 10:00～18:00
- 会場：大阪厚生年金会館大ホール(フェリスシティ大阪)
- 入場料：無料(参加整理券要)
- 参加整理券のご請求お問い合わせは右記へアクセス下さい。http://www.sound-festa.com

### 【弊社展示商品】

Digidesign ProToolsHDシステム(GS消音ラック、URS、EVENTIDE Plug-in他)、Millennia HA、AVIOMモニターシステム、ROYER リボンマイク その他

### ■ 事務所の移転のお知らせ

タックシステムは5月1日をもちまして創設10周年を迎える事になりました。これもひとえに皆様方のご愛顧およびご支援があってこそ心から感謝しております。これからはより一層皆様のお役に立てるよう、サービスの向上とサポートの充実に尽力していく所存です。また、10周年を期に事務所を築設以来の恵比寿から上大崎(JR目黒駅徒歩5分)に移転し再出発させていただくことになりました。この新事務所にはデモルームや防音ブースを設け最新の機器やテクニックを随時発信していきたいと思っております。お近くにお越しの際はぜひ弊社までお立ち寄りください。



### ★ NABレポートおまけ

ラスベガス・ストリップの東側(MGMからサハラ 片道\$3)を走るモノレールが、本来であれば開通している予定ではあったが技術的な理由(?)で夏以降に延期になったとのことで非常に残念だった。会場と主要ホテル間は20～30分間隔でシャトルバスが運行されているが夕方ともなると大渋滞で簡単には帰れなくなってしまった。しかし、沢山の資料を抱え歩いてホテルまで帰る距離ではない。(ラスベガスを一度体験したことのある人はうなずいているはず)少なくとも来年はこの問題を解決しているだろう。余談ではあるが、噴水で知られるベラージオホテルで、4月11日から4日間ほどの大停電があった。宿泊客は同グループの近隣ホテルに振り分けられ、完全にまひ状態。損害は1日に300万ドルにも及ぶと言うが、何もかも桁はずれである。そのベラージオの噴水に面したPICASSO(http://www.bellagio.com/pages/frameset\_flash.asp)というフレンチレストランは絶品である(写真はハトの肉料理)。人気が高いので日本を出発する前には予約をしておいた方がいだろう。メニューは2つのコースから選ぶだけです。少々高価ですが、ラスベガス旅行の記念に豪華な食事もよいのでは。



発行・編集元 不許複製  
タックシステム株式会社

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-5-1 E-mail: info@tacsystem.com  
TEL:03-3442-1525 FAX:03-3442-1526 HP: http://www.tacsystem.com